



Title	鈴木広和教授略歴および研究業績（抄）
Author(s)	
Citation	ハンガリー研究. 2025, 3, p. 1-2
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/100411
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

鈴木広和教授略歴および研究業績（抄）

略歴

- 1985 年 3 月 東京大学文学部西洋史学専修課程卒業
- 1995 年 3 月 東京大学大学院人文科学研究科
西洋史学専攻博士課程単位取得退学
- 1995 年 4 月 大阪外国語大学外国語学部講師
- 1999 年 1 月 大阪外国語大学外国語学部助教授
- 2007 年 10 月 大阪大学大学院人間科学研究科准教授
- 2016 年 4 月 大阪大学大学院人間科学研究科
附属未来共創センター准教授
- 2018 年 4 月 大阪大学大学院言語文化研究科准教授
- 2019 年 4 月 大阪大学大学院言語文化研究科教授
- 2022 年 4 月 大阪大学大学院人文学研究科教授
- 2025 年 3 月 定年により退職

研究業績（抄）

著書（共著）

1. 南塚信吾（編）『ドナウ・ヨーロッパ史』山川出版社、1999 年。
2. 秋田茂・桃木至朗（編）『歴史学のフロンティア』大阪大学出版会、2008 年。

学術論文

1. 「ハンガリー王国成立に関する諸問題について —イシュトヴァーン法令集をもとに—」『東欧史研究』9、1986 年、56-80 頁。
2. 「14 世紀ハンガリーの国王と貴族 — アンジュー朝による『ホノル』政策の検討 —」『東欧史研究』15、1992 年、2-27 頁。
3. 「14 世紀ハンガリーの国王収入についての一考察 — 鉱山と貨幣 —」樺山紘一（編）『西洋中世像の革新』刀水書房、1995 年、119-137 頁。
4. 「ハンガリー王国の再編」『岩波講座世界歴史 8 ヨーロッパの成長 11-15 世紀』岩波書店、1998 年、79-99 頁。
5. 「中世ハンガリーのクマン人とラースロー4 世」木村尚三郎（編）『学問への旅』山川出版社、2000 年、78-96 頁。
6. 「ルネサンス期ハンガリー王国の宮廷」高山博・池上俊一（編）『宮廷と広場』刀水書房、2002 年、89-105 頁。
7. 「ケーザイの著作『ゲスタ』におけるナティオ — スューチ説の批判的検討(1) —」『ハンガリー研究』1、2021 年、107-130 頁。
8. 「中世ハンガリー王国における文書発給機関としての教会組織 — 公証教会機関」高山博、亀長洋子編『中世ヨーロッパの政治的統合体』東京大学出版会、2022 年、333-358 頁。

翻訳（共訳）

1. ニーデルハウゼン『総覧 東欧ロシア史学史』北海道大学出版会、2013 年。